

平成二十四年度卒業論文・修士論文題目 (氏名・論文題目)

【卒業論文】

〔村田ゼミ〕

林 竜矢

〔灰谷ゼミ〕

柴田 美紀

谷口智佳子

長澤走一郎

濱野 慎一

松下ほたる

宮原梨香子

日本語学

古典における「とこ」「ゆか」の語義

日本語学

岡山方言の程度副詞に見られる動態についての研究 — 伝統形と新形の対立状況に注目して —

電子メディアにおける情緒的表現の種類と工夫についての研究 — SNSを中心に —

中心に —

商業的歌謡曲における人称代名詞を用いた心理的距離の表現についての研究 — JPOPの二人称代名詞を中心に —

滋賀県湖東域方言における「ホン」の研究

静岡県西部の方言接頭辞の意味・用法についての研究 — 「ど」と「ばか」を中心に —

子どもを対象とする言語表現の構造と機能に関する研究

横山しおり

言葉から見る「心」——「心」の比喩・慣用表現から —

〔岸本ゼミ〕

田中 麻緒

中古文学

『とりかへばや物語』宰相中将の人物造形 — 作中における役割から —

中島 幸穂

『蜻蛉日記』が目指したこと — 兼家に関する記述を起点にして —

野坂 靖子

『山路の露』についての考察 — 薫と浮舟の人物造形を中心に —

〔藤川ゼミ〕

中世文学

三好 優希

藤原隆祐の和歌研究

吉井 佐織

真観の歌合判詞に関する研究

〔藤沢ゼミ〕

近世文学

中谷奈津希

翻刻『今昔二枚絵草紙』

山本奈津美

『百鬼夜講化物語』考

亀田 奈那

— 妖怪の恐怖とおもしろさ —
人情本『玉菊全伝花街鑑』考

岩坂 恵子

『籠釣瓶花街酔醒』考

古家 彩香

『敵討余世波善津多』考

小長谷菜里

『小桜姫風月奇観』『小桜姫風月後記』

考 — 『桜姫全伝曙草紙』との比較

〔柴ゼミ〕

今井 佳奈

渡部 陽

自己／他者関係から読む小説教材の学習
習
した学習指導のねらいと授業展開

かこさとし『からすのパンやさん』研究
究 — 読者による享受の多様性をめぐって —

岡 みさき

小説を読む技能の育成の為に — 梶井基次郎『檸檬』の読者反応から —
文学教材で何を読むのか

大場 愛

小川未明「赤い蠟燭と人魚」論

廻野 聡紘

芥川龍之介『羅生門』の場合 —

大森 愛弓

有島武郎「実験室」考

一本松瑛里

評論文指導で何を学ぶのか

高下 昌子

改稿による本文の推移をふまえて —
藤沢周平文学における女性像

岡 加奈子

謝霊運詩に見られる自然描写について
魚玄機研究 — 恋愛詩に見られる表現の特異性について —

藤本 朱夏

『乙女の港』研究

永森沙也佳

『中国文学』

山本久美子

描かれた理想と現実 —
乃木希典へのまなざし — 司馬遼太郎

〔小畑ゼミ〕

〔創作〕

近現代文学

河井 朋樹

『殉死』『坂の上の雲』をめぐる —
熱井拳の闘い

山田 知佳

ヴェトナム戦争における活字メディア
ア・テレビメディアの戦争報道
— 現地特派員の手記を中心に —

〔寺杣ゼミ〕

創作「信じられない」

梶谷 絵里

『フリクリ』に見られる大人と子供の差異

安達 智美

岡本綺堂「青蛙堂鬼談」研究

清原 恵理

『深い河』登場人物に見る宗教視点の

熊淵 沙那

壺井栄「母のない子と子のない母と」研究

千葉 菜美

キミに宛てたセカイ（創作）

高橋 美和

音読・朗読・群読・暗唱を主な活動と

三浦 里奈

『スタイルズ荘の怪事件』と『カーテン — ポアロ最後の事件 —』にお

〔信木ゼミ〕

〔国語教育学〕

るスタイルズ荘についての研究

藤井 翔子

星拾い

〔藤井ゼミ〕

民俗学

〔伝承文学〕

矢治亜由実

六等星のプラネタリウム

安藤 美里

〔調査研究報告〕尾道市久山田町における文化・伝承の軌跡

【修士論文】

―平成二十四年度「尾道市久山田町鉦太鼓踊り」調査報告―

笠井 潤一

都市論の可能性 ―尾道を題材に―

尾道・太田神楽保存会公演「大江山」研究

諏訪まり子

広島県備後域方言における待遇配慮表現の研究

井川 桃

研究

高橋ひとみ

群書類従本『続浦島子伝記』における異郷

―古代浦島説話からの変容―

渡邊あさ紀

用瀬の雛送り研究

―ヒトガタ信仰との関わり―

〔光原ゼミ〕

創作

思い出まじい

謎解日和

古物語り

私とあの子の五日間

童屋一座

美弥子

花冠

プリムヴェール

谷口 詩織

うちのにおい

なぞときびより

よるもかた

わらしやいちご

みやこ

みやこ

みやこ

みやこ

みやこ

みやこ

平成二十四年度三年生・院生研究発表会発表題目（氏名・発表題目）

【3年生】

〔村田ゼミ〕

永田あずさ

日本語学

『万葉集』巻第一・二における格助詞

「の」の表記 ― 「乃」「能」「之」の使

い分け ―

小寺美季絵

『平家物語』の会話文における男女の

言葉遣いの違い ― 人称代名詞に着目

日本語学

〔灰谷ゼミ〕

「おらぶ」の地域性と意味・用法につ

大内 雅代

いて

大月 章

数字を用いた語呂合わせについて

小川 京

広島方言における文末詞「デ」について

佐伯 佑美

会話における特徴と配慮について

志田奈々実

肯定的用法の「やばい」の使用意識と

竹本 紫織

使用場面について

尾道市立大学生の方言の使用変化につ

中野 紘之

いて

漫画におけるオノマトペの使い分けに

ついて

西川 優花
古井明香里

発話における格助詞の脱落とその特徴
メール・SNSに用いられる記号の特徴
について

細川 彩

twitterにおける文末表現について

山口 翔平

落語「大工調べ」におけるおかしみの
構造について

〔岸本ゼミ〕

遠藤友佳利

小川 千尋

中古文学

『和泉式部日記』における「折」の効果

「変化の者」が示す人物像

鎌倉 有沙

― 『宇津保物語』にみる ―
歌ことは「海人」の持つ恋のイメージ

〔藤川ゼミ〕

志水真祐子

中世文学

『百鬼夜行絵巻』をよむ

土居 京

― 妖怪の持つ道具に注目して ―
『宇治拾遺物語』説話の連関

松本 茜

― 一〇九話を中心に ―
『隆房卿艶詞絵巻』における植物描写

〔藤沢ゼミ〕

椎江 麻実

小見山泰輝

近世文学

人形浄瑠璃における許嫁について

青頭巾 ― 鬼の探究 ―

山下佳奈子

『猫画之物語』を中心とした江戸時代における猫と鼠について

三上みちる

町田康『告白』研究 熊太郎はなぜ歌うのか — 対話としてのうた・おどり —

森 瑞希

『都風俗化粧伝』— 化粧方法からわかる江戸時代の女性の美しさ —

三宅真奈美

三谷幸喜『笑の大学』
— 笑いの意味をめぐって —

近藤 夏海

『雷太郎強悪物語』考 — 初期合巻の悪漢小説の魅力 —

〔藤井ゼミ〕
大澤 渚

〔民俗学〕〔伝承文学〕
昔話『三枚のお札』における恐怖の発生 — 「山姥」と「お札」の相互的考察を基に —

大川はるか

落語『死神』について考える

高江 祐二

広島県呉地方の例祭について
— 鬼役「やぶ」を中心に —

〔寺杣ゼミ〕

小平田亜弥

〔近現代文学〕
「ゼロ弾きのゴースト」研究
— ゴーストの成長について —

肥田 伊織

大分県東国東郡姫島村の伝説
— 「十二類絵巻」を通して —

三浦 友也

横光利一「機械」考
— 人物関係と役割 —

渡邊理恵子

〔光原ゼミ〕
創作
大分県東国東郡姫島村の伝説

武藤 孔一

織田作之助「アド・バルーン」研究
— その構成をめぐって —

飯森 琢人

ジャン・ヴァルジャンがマドレーヌ市長になるまでの彼の心情の考察

森藤 優花

井伏鱒二「山椒魚」— 外国文学との関連と一九八五年の末尾の削除について —

金田 萌

甲田学人『Missing』のオノマトペ

山田やよい

『蜘蛛の糸』研究
— 芥川龍之介の書いたエゴイズム —

佐々木真央

宮沢賢治のオノマトペ表現について
『リンの谷のローワン』から見る主人公像

泉 理沙

横光利一の死生観 — 「春は馬車に乗って」「花園の思想」をとおして —

田邊 奏帆

猫↓人間？夏目漱石『吾輩は猫である』と柳広司『漱石先生の事件簿 猫の巻』

宇田 香織

7th story CD『Marchen』の策者と嘘
— Sound Horizonの歌詞をめぐって —

張 明珠

「勾玉三部作」における人と神の距離

〔柴ゼミ〕

〔近現代文学〕

藤尾 史香

の変化

牧野 和裕

本格ミステリでフェアプレイをしながら、謎解きの難易度を上げる工夫

― 本格ミステリ大賞受賞作から学ぶ ―

宮崎 綾

宮部みゆき『ブレイブ・ストロリー』におけるカタカナ表記の意図と効果

山本みなみ

『妖怪アパートの幽雅な日常』から見る呼称の効果

【国語教育】

西田 将

司馬遷『史記』『項羽と劉邦』を授業でどう扱うのか

― 教科書の分析を中心に ―

山下奈緒美

特別支援が必要な生徒を中心にした授業のあり方

【近現代文学】

【創作】

粥川 太紀

『1984』を中心とした「個」のコントロール

藤沢 研治

アメコミ・ヒーローの自警行為

〔鷹橋ゼミ〕
大道 理恵

【中国文学】

陶淵明「閑情賦」に見られる恋愛観について

枝広絵里加

六朝志怪小説における異界訪問譚

【院生】

太田 悠斗

『夢十夜』その構成と主題について
― 「第五夜」「第九夜」「第十夜」を中心 ―

栢木 希望

瀬戸内海における御鳥喰神事